

パターン別指導の一例

正社員講師の1対2だからできる本物の個別指導

□パターン1:【自信喪失・消極型】の生徒

- 性格診断結果: 失敗を恐れ、自分で筆を動かさない「守備重視」タイプ。
- 指導法(処方箋):
 1. 即時賞賛: 「解き方」ではなく「一文字目の書き出し」をその場で褒めます。
 2. ショートカット: 複雑な公式を捨て、「図で一瞬で解く裏技」を授ける。
- 結果(爆速): 「自分でも解ける!」という確信が芽生え、最初の15分で目の色が変わり、小テストで満点。

□パターン2:【ケアレスミス連発・多動型】の生徒

- 診断結果: 思考は早い、詰めが甘いタイプ。
- 指導法(処方箋):
 1. 1対2の精密監視: ミスをする「瞬間のクセ」を横で見抜き、その場で修正。
 2. 検算のショートカット: 5秒で答えの正誤を確認できる「検算の計」を伝授。
- 結果(爆速): 無駄な失点が消え、次の定期テストで数学20点アップ。

□パターン3:【丸暗記依存・思考停止型】の生徒

- 診断結果: 努力はするが、応用が効かないタイプ。
- 指導法(処方箋):
 1. 器を広げる講話: 「なぜそうなるか」の原理を、講師の社会経験(職業や円安の話など)を交えて解説。
 2. 本質的ショートカット: 公式の暗記を捨て、「原理から答えを導く思考ルート」を脳に構築。
- 結果(爆速): 未知の問題への恐怖が消え、偏差値50の壁を電撃突破。

どんなに優れた講師でも一度に10人以上の生徒にここまでやり切るのは不可能だと思います。